

(7)

京都新聞

2014年(平成26年)7月21日 月曜日 17版 社会 2 22

iPS(人工多能性幹)細胞による世界初の臨床研究を進める理化学研究所の高橋政代プロジェクトリーダーが20日、京都府上京区の同志社大で開かれた視覚障害リハビリテーション研究発表大会で講演した。網膜の一部を移植する臨床研究や視覚障害者のリハビリ「ロービジョンケア」について語った(写真)。高橋さんは、臨床研究について安全性を説明した上で、「病気を抱えて生きる期間の社会的損失が注目されている。特に視覚障害は損失が大きい」と必要性を強調した。一方で効果が限定的なども指摘し、「全員の人々が少し見えるようにならねば、訓練次第で読み書きや仕事ができるようになる。再生医療はリハビリとセットで考えるべきだ」と訴えた。

STAP細胞問題で揺れる理化学研究所にも触れ、「いろいろ言われているが、理研・高橋リーダー、上京で講演ハイレベルの研究者が集まっている」と話した。

視覚障害者や支援団体の関係者ら約500人が参加。大会では障害者の生活を改善するリハビリの内容や最新の機器が発表された。(山下悟)

